

安川電機 歴史物語

第七章 メカトロニクス の躍進

「モートマンセンタ」開設

会社創立75周年にあたる平成2年、本社がある北九州・八幡事業所内にロボット専用工場「モートマンセンタ」が竣工した。

以来、今日までロボット生産の中核工場としての役目を担うとともに、生産ライン内に「モートマン」を配置して「ロボットがロボットを作る工場」として、多くの見学者を集めている。既に昭和62年にはロボット工場はモータの製造工場であった八幡工場から組織が独立、平成元年には北米のロボット販売会社「MOTOMAN Inc.」が設立されるなど、ロボット事業は世界への飛躍を遂げようとしていた。



モートマンセンタ

この時期は、モートマンセンタ以外にも、配電機器工場の開設、インバータ工場の新装完成（いずれも行橋事業所内、平成元年）、技術開発センタ完成（小倉事業所内、昭和62年）、つくば研究所開設（平成3年）、東京、大阪、名古屋の各地区におけるメカトロセンタ開設など、新たな拠点の新設が相次いだ。

「株式会社 安川電機」へ社名変更 新しいシンボルマーク制定

創立75周年を機に、新しい安川電機への発展を目指して全社的にCI活動に取り組み、平成3年9月に「Quality&Beauty」をスローガンとして定め、社名を「株式会社 安川電機製作所」から現在の「株式会社 安川電機」に変更、あわせて新しいシンボルマークとコーポレートカラーを策定した。

新しいシンボルマークは、当社のイニシャルである「Y」を筆文字風に表現したものを鋭くカットしたデザインで、人間のもつヒューマンな思想をベースに、「技術」に象徴される正確さと緻密さを表現したものである。コーポレートカラーの鮮やかなブルーは、技術、信頼、総合力、知性を表したものである。



YASKAWA

安川電機の新しいシンボルマーク

海外への展開

時代が平成に移り、この時期は従来の海外拠点に加え、新たな海外関連会社の設立が相次いだ。先に述べた米国の「MOTOMAN Inc.」のほか、欧州にインバータの生産拠点として英国安川電機（株）を設立、更にMOTOMAN ROBOTEC GmbH（ドイツ）、アジアでは

シンガポール安川電機（株）、韓国安川電機（株）、上海安川電動機有限公司などが新たに設立された。米国でのインバータ生産もはじまり、また産業用オートメーションシステム、産業用ロボット、ACサーボドライブ、汎用インバータといった主要製品に関して海外のメーカーへの技術協力も幅広く行うなど、欧米、そしてアジアへとグローバル展開が加速したのである。



MOTOMAN Inc.



MOTOMAN ROBOTEC GmbH



上海安川電動機有限公司

主要な製品

ロボットに関しては、平成3年に新日本製鐵（株）殿と可搬重量250kgの大形ハンドリングロボットを共同開発、また平成4年に新形ロボットコントローラYASNAC MRCを製品化した。

当社創立90周年を記念し、「安川電機歴史物語」を連載しています。

ロボット以外では、平成4年にACサーボドライブ「Σシリーズ」、マシンコントローラ「PROGIC-8」、小形汎用インバータ「VS-606PC3」のメカトロ主要3製品を製品化した。一方で平成5年にはACサーボモータ生産が50万台、AC主軸モータ生産が5万台、MOTOMANの出荷が3万台に達し、新しい時代のニーズに対応した新製品を次々と開発する一方、それまでの主力製品も順調に実績を伸ばしてきたのである。



ACサーボ Σシリーズ



マシンコントローラ PROGIC-8



小形汎用インバータ VS-606PC3

文責：人事総務部・広報グループ 村田 晋

棟方志功

安川カレンダー 物語

最終話：

最後の旅(後編)

デトロイト行き飛行機の中で倒れた画伯は、幸い乗り合わせていた医師の応急処置を受け、経由地のトロントの病院で診察を済ますと、再び作品展や講演、スケッチを重ねながら、何事も無かったかのようにニューヨークへの旅を続けた。

昭和49年（1974年）11月27日、日本への帰途につく。しかし出発前の空港で貧血を起こした画伯は、診察と酸素吸入の応急処置を受け、サンフランシスコ、ホノルルと休養しながら、12月2日に羽田に到着。翌々日には都内の病院に入院する。

肝臓癌だった。

4か月以上の長い入院生活を終え、翌昭和50年（1975年）4月26日に退院、画伯は自宅で療養を続ける。9月に入り、安川カレンダーの当時の担当者のもとに、画伯のご家族から「病状が思わしくない」との電話が入った。9月12日、安川カレンダーの最初の担当者だった大木〔株〕安川電機サービス社長〕がお見舞いに伺い、赤いバラとカーネーションをお届けした（この花が結果的に枕花となり、またカーネーションは画伯の棺の中を飾ることとなった）。

画伯はこの日のうちに昏睡状態に入る。翌13日午前10時5分、死去。享年72歳。

知人に託されていた墓碑銘「不尽の柵」は、ブロンズ板に仕上げられ、青森に用意されていた画伯の墓石の中央にはめ込まれた。墓石は画伯の生前の希望で、ノルウェー産のエメラルド・オパールという石で作られている。尊敬するゴッホの墓石と同じ石、同じ形で。普通なら亡くなった年が墓石に入れられるが、画伯の墓石には「自分の生命を超えて仕事に生きつづけた」という想いから「1903年～∞」と刻まれている。



隣着川頌(1975年)

安川カレンダーのために、1948年作の「隣着川板画巻」の中から十三冊を選び、病床で彩色をほどこした。これが画伯の生涯最後の芸術活動となった。

■安川カレンダーご紹介サイトは…
<http://www.yaskawa.co.jp/activities/munakata/index.htm>